

神話の地へ時間旅行

東海道第卅五宿

# 東海道

## 五十三次

### 庄野

しまうの

白鳥に姿を変えてのこぼと思わせるほど  
飛び立ったと伝わる  
日本武尊命が見た  
風景とそう変わらない  
こみぢくなる



鈴鹿川堤防に沿って  
ゆるやかに左にカーブ  
するあたりが、広重の  
「庄野の有用」の題材に  
なるところといわれる。

困気を添えている。  
女の懸るを象徴する  
女人堤防の伝説もおも  
しろい。  
広重のシリーズ中でも名作  
の風景もいまでは国道  
沿いの殺風景な場所  
になつてしまつた。



ヤマトタケルの死

手負いの身体で苦しみながら  
杖衝坂を越えたヤマトタケルは、  
能褒野という土地にたどり着  
き、国をしのんで詠じた。  
「倭は国のまほろばたたなづく  
青垣山隠れる体しうまはし」  
古事記に記されているヤマトタケル  
の白鳥伝説である。

ヤマトタケルが死の直前まで、  
加佐登神社持っていたという笠と杖を「神体」として

白鳥塚古墳  
能褒野王塚古墳  
がある。  
明治二年にヤマト  
タケルの御陵として  
国から指定された。